
処女作供養

大和屋ムラサキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

処女作供養

【Nコード】

N1017P

【作者名】

大和屋ムラサキ

【あらすじ】

拝啓、作者様。

私はあなたの処女作の主人公。
哀れな、惨めな主人公。

拝啓、作者様

菊香る今日この頃、作者様にはお元気でご活躍のこと拝察いたします。

さて遅ればせながら「机上の白」ご完結のこと、お慶び申し上げます。

先月の『時雨（第二〇九号）』に於きまして、書きかけの遺書を書斎の机上に残し、交差点のど真ん中で連続殺人犯にあっけなく殺された男でございます。

たいへんに間抜けな最期でした。甲斐の無い遺書でありました。

「机上の白」というタイトルの意味を、ようやく理解することができました。

しかし、無念でなりません。

今作の反響はいかがでしたでしょうか。

私を知る限りでは、どうやら近々文庫化が決まったとのことですが、やはり好評だったんですね。

ですが、やはりあの終わり方については賛否両論と聞きました。

読者の方々は私に同情して下さっているのでしょうか。

そんなことはありませんね、わかっているのです。

流行作家さんというのは、いつの時代も愛され憎まれで御座います。

私もあなた様を愛する一方で、相反する感情の湧く日があったことは否めないのです。

第二〇二号で、最愛の子犬が癩癩持ちの老人に蹴り殺された回。

あの辛さは今思えば出すだけでも胸に鉛がつかえ、喉元を麻縄でぐいとやられるような苦しさを覚えます。

（少々大袈裟でありましょいか）

あれはいわゆる、伏線というものだったのですね。全く気がつきませんでした。

あの時点で私の無様な死はあなたの構想の中にあっただのですね。いいえ、あなた様は今作を書くにあたって私を殺すことが目的だったのです。

あなた様は大抵筋書きより先にタイトルをお決めになる。

あなた様は私をペン一本で操ることができるのです。

私の最愛の子犬を、たったの七十文字で殺してしまうこともできるのです。

私はあなた様と一心同体でございます。あなた様無しに、私は成立しないのですから。

しかしあなた様は私と一心同体では御座いません。

私は交差点のご真ん中で、赤黒い血を撒いて死んだのです。

一方、あなた様は今月号の巻頭で注目の作家特集なるものを組まれ、賞賛を浴びていらっしゃる。

わかっているのです。ええ、わかっているのです。

私など、私の存在など、あなた様がこれから歩む華々しい作家生活の足がかりとなるであろう小説の、哀れな、惨めな主人公でしかないのです。

私はあなた様の処女作の主人公という名の男。

この無様な血濡れ姿を晒しながら、あの交差点からいつまでもあなた様を見つめております。

死んだ子犬の亡骸を抱き、あなた様をいつまでも見つめております。

あなた様の処女作の中に私は生き続けるのです。

私の無念も、あなた様への感情も、生き続けるのです。

敬具

さて、これが私の元へ届いた手紙。

あなたの近所の交差点に、献花はありませんでしたか。

それは昨晚私が供えたものなのです。彼の供養にと。

どうぞ読者の皆さんにも、手を合わせていただきたいのです。

彼の供養のため、私の処女作供養のために。

(後書き)

ご意見・ご感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1017p/>

処女作供養

2011年1月4日03時46分発行